

Z19-1953

日本組織培養学会

平成2年3月20日

会員通信

第71号

発行責任者

※鈴木利光(福島県立医大)、菊川忠裕  
(聖マリアンナ医大)、許南浩(東  
大・医科研)、間中研一(獨協医大)、  
大島浩(大阪歯大)

※福島市光が丘1(〒960-12)

福島県立医大第2病理

電話(0245)48-2111 内線2190

## § 選挙公示

次期の日本組織培養学会幹事を選出するための選挙を実施するよう、会長から選挙管理委員を依頼されました。

会員通信第70号に幹事任期の規約改正の案が提示されましたが、この案は総会の承認を得ていませんので、今回の幹事選挙は従来通りの日本組織培養学会の会則にのっとり行われます。すなわち1990～1992年までの2年任期の幹事(40歳未満、40歳以上各々4名)を選出する選挙となります。

つきましては、会則に従って、次のように実施しますので、棄権なきよう、ご投票の程お願い申し上げます。

### 記

#### ○選挙役員

幹事8名(40歳未満、40歳以上各々4名)

#### ○投票方法

無記名、郵送による。

(投票用紙、被選挙人名名簿、宛先入返送外封筒ならびに内封筒は同封されています。)

#### ○投票締切

平成2年4月20日(当日消印有効)

〈注意〉下記の場合は無効となります。

指定の投票用紙(学会刻印)を使用しなかった場合。

返送用外封筒に氏名、所属機関名、所属機関住所の記入のない場合。

返送用封筒に1枚以上の投票を同封した場合。

投票用紙を指定の封入用内封筒に封入していない場合。

以上

選挙管理委員：桶田 俊光

中野 修治



①投票用紙、②中封筒、③返信用封筒、④被選挙権のない会員名表

①

投票用紙	
幹事（40歳以上）	
幹事（40歳未満）	

②

投票用紙封入用

③

住所	
日本組織培養学会	
選挙管理委員長	
行	
氏名	
所属機関	
同住所	

④

幹事選挙に被選挙のない方

前幹事：乾 直道、小野順子、加治和彦、藏本博行  
許 南浩、間中研一、宮崎政博、渡辺正巳  
現幹事：梅田 誠、鈴木利光、野沢志朗、難波正義  
桶田俊光、菊川忠裕、中野修治、水沢 博

役員選挙のスケジュール

- (1) 役員選出方法に関する（案）を承認する。（済み）
- (2) 幹事会で選挙管理委員の選出を行う。（済み）
- (3) 会員通信で公示する。……原稿締切3月10日
- (4) 投票に必要なもの一式を会員に送付する。  
……4月上旬

1 選挙公示の文書

- 2 被選挙人名簿（新規の学会会員名簿で兼ねる）
- 3 投票用紙
- 4 投票用封入用封筒
- 5 返送用外封筒（氏名、機関名、機関住所欄付き）

但し、郵送料など経費節約のため、下記の(1)～(4)と一緒に郵送する。

- (1) 新規の学会会員名簿  
40歳（平成元年12月末日における）以上の会員名の前に○印をつけたもの
- (2) 投票に必要な書類一式
- (3) 今回の被選挙権のない会員名表  
（現幹事、前回幹事）
- (4) 選挙の公示掲載した会員通信
- (5) 開票、集計…………… 4月下旬
- (6) 発表 …………… 5月上旬

## § 編集委員会規程

### 総 則

**第1条** 日本組織培養学会（以下「学会」という。）に、日本組織培養学会機関誌「組織培養研究」編集委員会をおく。

### 構 成

**第2条** 編集委員会は、編集委員4名および編集事務局委員1名の計5名で構成する。

2. 編集委員は、日本組織培養学会会員より幹事会が推薦し総会の承認をうけ会長が委嘱する。
3. 編集委員の任期は4年間とし学会幹事選挙年度に2名づつ改選する。再選はこれを妨げない。
4. 編集委員会に、委員の互選により委員長をおく。
5. 編集委員会は、「組織培養研究」発行に関する企画、掲載に関する業務をおこなう。

### 編集事務局

**第3条** 「組織培養研究」の編集事務をおこなうために編集事務局をきめ事務局委員をおく。

2. 編集事務局委員は幹事会で推薦し、総会の承認を受け会長が委嘱する。
3. 編集事務局委員は編集委員会の一員となる。
4. 事務局委員の任期は4年とし、再任はこれを妨げない。

### 改 廃

**第4条** 編集委員会規程の改廃は、編集委員会および幹事会の議を経て行い、総会の承認を得なければならぬ。

**附則** この規程は、平成元年4月1日より施行する。

### 組織培養研究投稿規定

1. 投稿論文は原則として、組織培養領域に関する未発表の英文または和文の原著 (full paper)、短報 (brief note)、総説 (review) または各種情報 (information) とする。
2. 原稿1部とそのコピー2部を編集事務局へ提出する。ただし、写真についてはすべて原図とする。
3. 投稿論文は編集委員会で審査し、掲載が決定したものについて決定願に掲載する。
4. 原稿の第1頁には表題、著者名、所属機関およびその所在地を英文および和文で併記する。複数の著

- 者による論文の場合には投稿論文に関する問い合わせの出来る著者を連絡者に選び、その電話番号とフックス番号を明記する。表題は、原則として英文論文については20 words 以内、和文論文については40 語句以内とし論文の内容を的確に表したものとす。
5. 原稿の2 頁には、表題および氏名を明記したうえで要約 (abstract)、略表題 (running title) およびキーワード (key words) を記す。英文論文の要約は200 words 以内とする。和文論文の要約は400語句以内としさらにその英訳をつける。略表題は8 語句以内とする。キーワードは5 個以内を選ぶ。
  6. 原著論文の場合には、3 頁以降に序文 (Introduction)、材料と方法 (Materials and Methods)、結果 (Results)、考察 (Discussion)、文献 (References) の順で配置する。原著論文以外は3 頁以降の形式は問わない。
  7. 英文原稿は必ずダブルスペースで作成し、A 4 判白色タイプ用紙に鮮明に印字する。和文原稿は、400字詰原稿用紙を用いるか、ワードプロセッサで作成する。英文、和文いずれの場合にも上下左右にそれぞれ2 cm 程度の余白をとる。打出しプリンターは鮮明であれば機種を問わない。ワードプロセッサで作成した原稿についてはフロッピーデスクによる投稿が望ましい。使用できるソフトについては事務局に問い合わせること。フロッピーデスクにより投稿する場合には、フロッピーディスク1枚とともに打出し見本2部をつけ提出する。ただし、写真については3部提出する。
  8. 外国の地名、人名等は原語または英語で表し、固有名詞についても最初の文字以外は小文字とする。専門術語は、原則としてそれぞれの専門分野の用語集に従うものとする。動植物の学名などでイタリック体で印刷されるべきものには下線をつける。
  9. 数字は算用数字とし、単位はSI 単位をもちいる。論文中で略字を使う場合には論文中に初めて使用するときに略する字句に続いてその略語を括弧でくくって示すこととするが、最少限にとどめる。
  10. 引用文献は論文中に引用した順にまとめて番号をつけて表示し引用する。本文中では該当する位置に肩書付きで表示し引用する。文献の記載は以下のようにする。
    1. Hart, R. W. and Setlow, R. B. :Correlation between deoxyribonucleic acid excision repair and lifespan in a number of mammalian species .Proc. Natl. Acad. Sci.U. S. A., 71 : 2169-2173, 1984.
    2. Hayflick, L. :The cellular basis for biological aging. In:Finch. C. E. and Schneider F. L. (Eds.), Handbook of the Biology of Aging, Van Nostrand Reinhold, New York, NY, pp. 159-186, 1977.
    3. 山田正篤, 仙波まり : Aids における抗 HIV ウイルス治療の戦術. トキシコロジーフォーラム, 11 : 508-523, 1988.
  11. 図はそのまま写真製版できるように鮮明に作成する。図および表の上部余白には第一著者名および番号を明記し、説明は別紙にまとめて記述する。写真は、鮮明なのを用意し必要に応じて縮尺を写真内に明示する。写真の裏面に鉛筆で薄く第一著者名および番号を記入する。図表および写真の本文中の挿入場所は、原稿の余白部分に指示する。カラー写真も受け付けるが必要経費は投稿者の負担とする。
  12. 著者校正は原則として初校のみとし、その際の追加変更はできない。
  13. 刷りあがりて8 ページを越える投稿原著論文および10ページを越える投稿総説には、それぞれ超過ページ1 ページにつき5,000円のページチャージが必要となる。投稿英文論文に関して英文校正が必要な場合には、その実費は著者負担となる。別刷費用は著者の実費負担とする。
  14. 原稿の送付および投稿に関する問い合わせ先は下記の編集事務局とする。

〒236 横浜市金沢区福浦3-9

横浜市立大学医学部R I 研究センター内

日本組織培養学会機関誌編集事務局

渡辺正己

電話 045-787-2760

ファックス 045-787-2761

## 編集委員会委員

Editor-in-Chief	Ryosaburo Takaki (高木良三郎)
Associate Editors	Kazuhiko Kaji (加治和彦)、Hiroyoshi Hoshi (星 宏良)、 Makoto Umeda (梅田 誠)
Managing Editor	Masami Watanabe (渡辺正己)
Editorial Board	Michihiro Yoshida (吉田迪弘)、Isao Yamane (山根 毅)、 Atsushi Mitsuhashi (三橋 淳)、Youji Mitsui (三井洋司)、 Tadao Ohno (大野忠夫)、Jyunpei Enami (榎並淳平)、 Akira Niwa (丹羽 章)、Shirou Nozawa (野沢志朗)、 Seiji Nagamori (永森静志)、Nam-ho Huh (許 南浩)、 Masayoshi Kumegawa (久米川正好)、Ichio Ii (伊井一夫)、 Toshiharu Matsumura (松村外志張)、 Toshimitsu Suzuki (鈴木利光)、Yukiaki Kuroda (黒田行昭)、 Masao Kitano (喜多野征夫)、Masayoshi Namba (難波正義)、 Tooru Okigaki (沖垣 達)、Nori Nakamura (中村 典)、 Yoshiyuki Niho (仁保喜之)

## § お知らせ

### 1. 第63回大会最終案内

- 日 時：平成2年(1990)5月21日(月)午後1時より

22日(火)

23日(水)

- 会 場：国立京都国際会館

〒606 京都市左京区宝ヶ池

TEL 075-791-3111

- プログラム概要

5月21日(月)

- ・特別講演 I 高木良三郎(大分医大内科第一)「機能培養-in vivo へのアプローチ」

座長：難波正義(川崎医大)

- ・シンポジウム I 「小児固型腫瘍の細胞・分子生物学的特性」

座長：沢田 淳(京府医大)、秦 順一(慶応医)

5月22日(火)

- ・教育講演 I 三澤信一(京府医大)「染色体分析における高精度分染法の展開と分子遺伝学的手法の応用」

座長：黒木登志夫(東大医科研)、山口希(京都医大)

- ・シンポジウム II 「神経系細胞の形態分化と機能発現」

座長：鈴木利光(福島医大)、御小柴克彦(阪大蛋白質研)

- ・シンポジウム III 「ホルモン依存性腫瘍」

座長：本庄英雄(京府医大)、野沢志朗(慶応医)

5月23日\*

- 特別講演 II G. J. McGarrity (Coriell Inst. for Med. Res., USA)「Effects of Mycoplasmas on cell culture systems」

座長：奥村秀夫（国立予研）

- ミニシンポジウム 「Mycoplasmas and tissue culture」

座長：G. J. McGarrity (Coriell Inst. for Med. Res., USA)、奥村秀夫（国立予研）

- 一般講演

- 総会参加費、懇親会費：総会参加費 会員 5,000円

非会員 6,000円

懇親会費 4,000円

- 問い合わせ先

第63回世話人 今西二郎

〒602 京都市上京区河原町広小路上ル梶井町465

京都府立医科大学微生物学教室内

日本組織培養学会第63回大会事務局

TEL 075-251-1296（学会専用）

FAX 075-252-2495

## 「日本組織培養学会第63回大会」

### 宿泊のご案内

この度、首記会議のご宿泊をJTB京都支店にて取扱わせて頂く事となりました。お得な特別学会料金にてご用意しており、又、会場の国立京都国際会館までホリディンより送迎バスがございますので是非ご利用下さい。受付順に予約致しますので、お早目のお申込みをお待ち申し上げます。

- 1) ホテル名、料金（1泊、お部屋代、税金・サービス料込み お一人様料金）

ホテル名	SB	TE	SU
ホリディン京都	¥ 7,000	¥ 6,000	¥ 9,000

（SB=シングルルーム/TE=ツインルーム/SU=ツインメームのお一人様使用）

- 2) お申込方法

- a) 現金書留にてお支払いの場合は、宿泊申込書に必要事項をご記入のうえ、宿泊予約金（1名につき10,000円）を添えてご送金下さい。

- b) クレジットカードにてお支払いの場合は、事前引落しをいたしますのでクレジットカードのコピーを添えて、宿泊申込書に必要事項をご記入のうえ、ご郵送下さい。

- 3) お申込締切日は、1990年5月7日です。

- 4) 取消料およびご返金については、以下のとおりです。

- 宿泊日の9日前迄のお取消……………1,000円

- 宿泊日の8日前以後2日前迄のお取消……………お部屋代の20%

- 宿泊日の当日のお取消および無連絡……………1泊分の宿泊料金

5) 宿泊に関するお申込、お問合せは、以下にお願い申し上げます。

〒600 京都市下京区東塩小路町

JTB 京都支店

TEL (075) 361-7241

「日本組織培養学会第63回大会」係

FAX (075) 341-1028

「日本組織培養学会第63回大会」 宿泊申込書

No. \_\_\_\_\_

お申込日 月 日

代表者氏名		TEL( )
郵便物送付先	(〒 )	

氏名 (ふりがな)	宿 泊 日					
	5/21	5/22	5/23	部屋タイプ		予 約 金
					S	
				T	S	
T…ツインルーム S…シングルルーム				予約金合計		

支払い方法 (どちらかに○印つけて、bの場合は下欄にもご記入下さい。)

- a. わたくしは、支払いを現金書留で行います。
- b. わたくしは、支払いを下記カードで行います。

利 用 カ ー ド 会 社 名		有効期間	カ ー ド 番 号
(1) YES JCB カード	(5) V I S A	19 年 月 日	
(2) ダイナースクラブ	(6) ユニオンクレジット		
(3) 日本信販	(7) ダイヤモンドクレジット		
(4) J C B	(8) ミリオンカード		

ご署名 \_\_\_\_\_ 印

## 2. 第5回日本組織培養学会秋期シンポジウム予告

### 「Bone Cell Biology」シンポジウム

世話人代表 久米川正好会員  
〒350-02 埼玉県坂戸市けやき台1-1  
明海大学歯学部 口腔解剖第一講座  
教授  
TEL 0492-85-5511  
FAX 0429-87-6657

### 第二回細胞工学シンポジウム

世話人代表 小林 茂保会員  
〒244 横浜市栄区田谷町1  
株式会社バイオマテリアル研究所  
所長  
TEL 045-851-9271  
FAX 045-851-9270

日 時 1990年11月7日(木)～8日(木)  
会 場 ソニックシティ (埼玉県産業文化センター) 小ホール  
〒331 埼玉県大宮市桜木町1-441  
(大宮駅西口至近距離)

TEL 048-647-4111

FAX 048-647-4159

至近宿泊施設 パレスホテル (同住所)

TEL 048-647-3300

FAX 048-647-0430

### シンポジウム内容とスケジュール

11月7日(木) 細胞工学シンポジウム  
「バイオアクティブマテリアルと分化・発生」

Bone Cell Biology - 細胞工学

ジョイントセッション

懇談会

11月8日(木) Bone Cell Biology シンポジウム

なお、セッションの詳細については次号で御通知します。また、細胞工学シンポジウムについては日本  
応用細胞生物研究会の後援を得て行います。

(世話人)

### 3. 日米合同組織培養学会の開催について

日本組織培養学会

会長 黒田 行 昭

昨年5月、アメリカの組織培養学会会長 Robert E. Stevenson 博士から日本組織培養学会 に対して、日米合同組織培養学会を1991(平成3年)6月16日(日)~19日(水)、カルフォルニアのアナハイムで開催することについて提案があり、日本組織培養学会としても、昨年6月の第2回幹事会、11月の第3回幹事会でこれに対する対応につきまして協議を重ねて参りました。

アメリカの組織培養学会では、その後、プログラム委員として Bruce R. Zetter 博士(ハーバード医大)を任命して会議の運営、内容などについてかなり具体的に検討を重ね、本年2月の始め Zetter 博士から、また2月下旬には次期(本年6月より)会長の Elliot M Levine 博士から、この日米合同組織培養学会について手紙が寄せられ、この学会の開催がつぎのようにかなり具体的に参りました。

- 1) 期日は1991年6月15日(土)~20日(水)、アメリカのカリフォルニア州、アナハイムのマリオットホテルで開催されます。この期間はこの会議の参加者のためにマリオットホテルに約1,000室が用意されます。
- 2) 会議はアメリカの組織培養学会が“ホスト”組織(主催者)となり、日本組織培養学会は共催(co-sponsor)の形で参加し、会議のプランニングや組織について参画します。ただし日本組織培養学会には財政的な負担はかけない予定です。
- 3) この会議は日米が中心となりますが、アメリカの細胞バンクやパンアメリカ組織培養学会や他の国からの参加者を歓迎します。したがってかなり国際的な会議になることが予想されます。
- 4) 会議の内容は6月16日(日)、18日(火)、20日(木)3日間は(多分午前8:30頃より)全員出席できるシンポジウムを開催し、17日(月)と19日(水)には特別講演を行います。
- 5) シンポジウム、特別講演に続いて“Sessions in Depth”を行い、より深い討議を行います。午後はワークショップ、円卓会議、展示講演(ポスター)を行います。展示講演は10~20題位ずつの講演をテーマごとに分けて質疑を行いません。
- 6) かなり広い分野に関係する1つの大シンポジウムを開きます。1つの案は「組織形成における細胞相互作用」で、このテーマから発生学、パターン形成、培養細胞の分化、細胞接着、組織形成、細胞の移動、増殖の調節、遺伝学、植物の組織形成、トランスジェニック動物や植物、その他多くの分野を包含することができます。
- 7) アメリカの組織培養学会は主催者として日本組織培養学会から出席するシンポジウムや“Sessions in Depth”の講演者8~10名に対して\$20,000の旅費、滞在費を用意しています。

大体以上のような内容です。

これは日本組織培養学会にとっても、このための特別の募金や、その他財政的負担を心配しなくて済む大変結構な提案だと存じますし、会員や学会は国際的レベルの向上のためにも大変有益なことと存じます。

今後日本組織培養学会としては幹事の方々や会員の主だった方々のご相談しながらこの合同会議をできるだけ会員の方々にとっても意義あるものにするため、積極的にシンポジウムやワークショップなどのテーマについて提案して行いたいと存じます。

以上のようなことで、会員の皆様からも、この学会のシンポジウムやワークショップなどについてのご意見やご希望などをできるだけ多くお寄せいただき、それらを参考に今後、日本組織培養学会としての意向を、この学会に反映させて行きたいと存じております。来年6月のこの日米合同組織培養学会には、できるだけ多くの方々のご参加を期待しています。

#### 4. First Congress of the Asian-Pacific Organization for Cell Biology (第1回アジア太平洋細胞生物学会議)

上記の国際学会(通編APOCB会議)が、本年11月3日～7日の間中国上海市天馬大飯店で開催されます。

会議の内容は5特別講演、22シンポジウムおよび一般発表からなり、細胞生物学全般を包括しています。日本からは特別講演の岡田善雄(大阪大学)、広川信隆(東京大学)両教授をはじめ、約40人が招へいられています。一般発表の締切りは5月15日です。

セカンドサーキュラーの配布、アブストラクトの発送、団体旅行および宿泊等については下記にお問合せ下さい。

〒150 東京都渋谷区桜丘24-4 東武富士ビル  
JAL コンベンションデスク(担当山内氏)  
TEL 03-461-0781  
FAX 03-496-0456

内容の詳細についての御質問は下記におねがい致します。

〒701-02 岡山市山田2117 重井医学研究所内  
APOCB事務局 沖垣 達  
TEL 0862-82-3113  
FAX 0862-82-5345

なお、日本細胞生物学会会員には近日中に直接御案内が届きますので御了承下さい。

アジア諸国の研究者は日本の研究者との交流を望んでいます。御一緒に参加頂けますようお願い申し上げます。

(沖垣 達)

#### 5. 日本宇宙生物科学会第4回大会

- 1 会期 平成2年10月12日(金)、13日(土)
- 2 会場 名古屋大学東山キャンパス内  
(名古屋市千種区不老町)
- 3 大会長 渡邊 悟(名古屋大学環境医学研究所)

お問合せ先: 〒464-01 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学環境医学研究所  
日本宇宙生物科学会第4回大会運営委員会事務局  
TEL (052) 781-5111 内線 5918

学会事務局: 〒229 神奈川県相模原市由野台 3-1-1  
宇宙科学研究所  
宇宙基地利用研究センター内  
TEL (0427) 51-3911 内線 2727

## § 編集後記

- 本号には選挙公示、編集委員会規定ならびに編集委員の方々の紹介があります。また、1991年6月開催のATC・JTC合同学会についての詳細な案内も掲載されております。  
学会のなお一層の繁栄と盛況をもたらしますよう、幹事選挙、組織培養研究への投稿、学会参加など積極的をお願い致します。
- 第63回総会は一般演題の他に特別講演2、シンポジウム4、教育講演2とバラエティーの富んだ内容です。また、第5回秋季シンポジウムは躍進著しい骨細胞の生物学をテーマに来る11月7、8日に大宮市で開催されます。第2回細胞工学シンポジウム「バイオアクティブマテリアルと分化・発生」も同じ時期と場所で行われます。それぞれ御参加と活発な御討論とをお願い致します。
- 何ごとも地球的な規模で考えなければならない時代に突入してしまったようです。日常的な事象におわれながらも、時には大きな視野で考えるべきなのでしょう。なかなか難しい芸当です。
- 幹事改選のため、本年度で会員通信担当者がかわります。2年間、会員の皆様方の御協力と御指導に感謝しつつ、次期幹事にひきつぎたいと思います。どうも有難うございました。(1990年3月10日、大学の卒業式の日に)

たわいなく たゞ春の日に 卒業す

## § 住所変更

氏名	現住所	所属機関・所在地
乾直道	〒251 藤沢市辻堂新町2-4-12 ☎0466-36-7162	日本たばこ産業(株)医薬研究所 〒277 横浜市緑区梅が丘602
加藤四郎	〒565 吹田市藤白台4-23-7 ☎06-872-7389	住友製薬(株)研究所顧問室 〒554 大阪市此花区春日出中3-1-89 ☎06-466-5282
小浦雅敏		ファルマシア(株) 〒141 品川区上大崎4-5-37 ☎03-492-9481
菟田康	〒235 横浜市磯子区洋光台3-13-2 -1201 ☎045-833-8930	(株)上尾中央臨床検査研究所 〒340 八潮市小作田213-3 ☎0489-97-7721
高野良仁	〒250-01 南足柄市岩原12-1 ☎0465-73-3828	テルモ(株)究開発センター技術開発本部管理 部開発 〒259-01 神奈川県足柄上郡中井 町井ノ口1500 ☎0465-81-4111
長山英男	〒980 弘前市住吉町4-304 ☎0172-36-2788	弘前大学農学部園芸化学科 〒036 弘前市文京町3 ☎0172-36-2111
三上啓子	〒140 品川区東大井6-12-15-201	日本医科大学法医学教室 〒113 文京区千駄木1-1-5 ☎03-822-2131
宮田和幸	〒641 和歌山市松ヶ丘1-11-36 ☎0734-44-7285	和歌山県立医科大学歯科口腔外科 〒640 和歌山市七番丁27 ☎0734-31-2151

賛助会員1件

機関名	所在地
富士レビオ(株)	〒160 新宿区西新宿4-15-7 後楽園新宿ビル6F ☎03-348-0666